

鳥の健康管理。

日本の暑い夏には、おなかにカビのわく真菌症、あるいは自家中毒コクシジウムなどの病気にかかりやすく、冬の寒い季節には、小鳥にも呼吸器系の病気が多くなります。飼い鳥の環境というものは、カゴの中という限られた狭い世界のことですし、保護者であるわれわれ飼い主の責任として、鳥かごの中をできるだけ快適な住み心地の良いものにしてやることは、当然のことと言えるでしょう。生き物である以上、四季の移り変わりにともなって、その季節にともなって、その季節に適した管理が望ましいのですが、特に梅雨時から酷暑にかけては鳥たちにとって、春の巣引きから換羽へと健康上、生理上、体力を激しく消耗する時期なのです。したがって、飼い主がとくに気を付けてやらなければならない時期です。このような生理変化は、自然環境に対処する小鳥たちの反応でもあって、自分の健康を保つためいろいろな調節作用を体内で営んでいるのです。暑くなってきましたと、汗腺のない鳥たちは呼吸でもって余った体温の放散をしなければならないので、呼吸が早くなり、皮膚血管をひろげて血行を盛んにします。また、両方の翼を体から離し、胸や腹の羽毛を開き、できるだけ皮膚の面を風に当てたりします。しかし、こういう調節も、カゴの中という不自然な環境では、鳥たちには相当な負担となりまた調節作用にも限度があり、無限に調節できるというものではありません。そして、熱射病や消火器障害や栄養失調など、不健康な状態を引き起こすことにもなりやすいのです。鳥の防暑対策といっても、特別な方法があるわけではありませんが、風通しよく湿気の少ない乾燥した涼しい場所にしておくことが重要だと思われまます。鳥カゴは、水浴びの水でぬらしっぱなしにしておいたり、糞で汚したままにしておいたりせず、なるべく小まめに掃除をして、たまには直射日光を当てて、殺菌をかねて乾燥させることが大事です。オススメな方法はカゴ2個を用意し交互に使うとよいでしょう。やはり生乾きではカビの原因になりますので、天日で完全に乾かしてから使うようにするとベストです。湿ったままにしておきますと、湿度を増し体温の放散ができにくいばかりでなく、カビや細菌の温床ともなり蚊の侵入にも良い条件を作ってしまうから、十分注意して下さい。

